

日野クリニック通信では、患者さん、ご家族の皆さんに保険制度や、健康にすごしていただくための豆知識など、皆さんのお役に立つ情報を定期的にお届けしています。

胃がんの危険因子 ‘ピロリ菌’ 除菌療法

ヘリコバクター・ピロリ菌とは？

胃がんの危険因子として最も重要とされているのは、‘ヘリコバクター・ピロリ菌感染’です。ピロリ菌は胃の粘膜にすみつき、胃粘膜の萎縮を引き起こします。これが慢性化すると慢性胃炎の状態となり、胃がんに発展しやすくなります。陽性者は陰性者に比べ、胃がんのリスクが**5倍以上**であると言われています。

ピロリ菌感染の症状とは？

- ✓ 胃もたれや吐き気
- ✓ 空腹時の腹痛
- ✓ 食後の腹痛
- ✓ 食欲不振・・・など

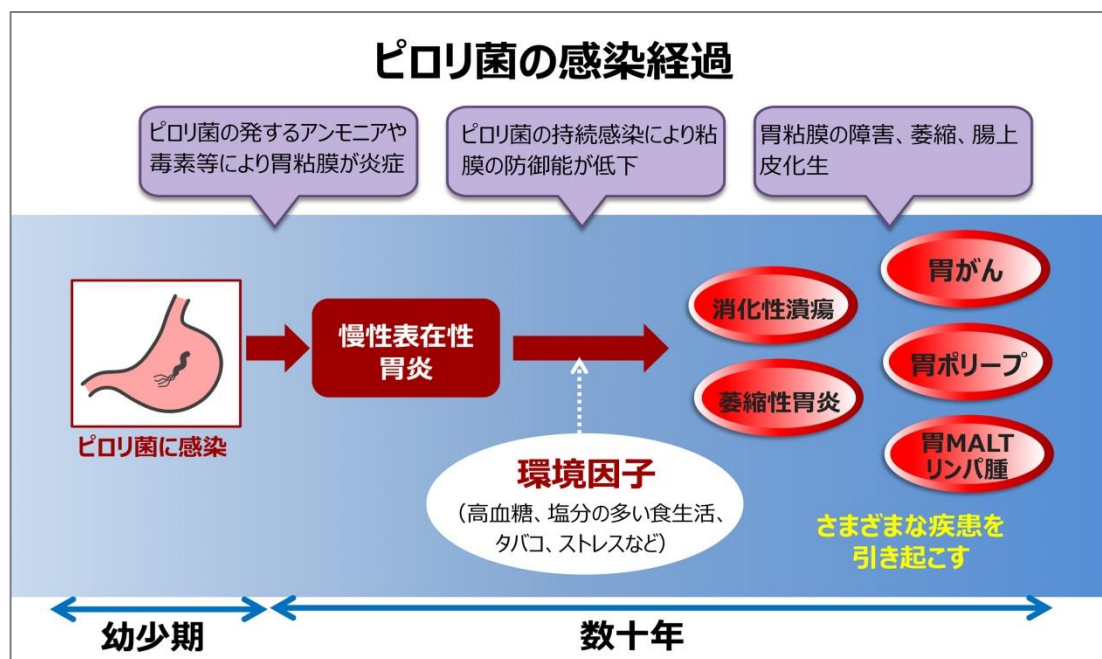


ピロリ菌が原因で起こる病気は？

- ✓ 慢性胃炎・萎縮性胃炎
- ✓ 胃・十二指腸潰瘍
- ✓ 胃がん
- ✓ 胃ポリープ・・・など



ピロリ菌の感染経過



ピロリ菌感染の治療法

ピロリ菌は、服薬による「除菌療法」で治療することができます。ピロリ菌除菌により胃がんや胃炎、胃潰瘍のリスクを減らすことができますといわれています。

- 内視鏡検査によって胃炎もしくは胃・十二指腸潰瘍と診断
- 胃透視（バリウム）検査によって胃・十二指腸潰瘍と診断

ヘリコパクター・ピロリ感染有無検査(尿素呼気試験法、抗体測定など)

陽性（感染している）

陰性（感染していない）

除菌（内服薬投与）

終了

除菌後判定

- ① 除菌終了後4週間～8週間経過後
- ② 静菌作用を有する薬剤投与中止
または終了後2週間経過後
- ③ 抗体測定を実施する場合は除菌終了
6ヶ月経過後

陽性（感染している）

陰性（感染していない）

再除菌
(1回のみ)

終了

※再除菌及び再除菌後の効果判定は1回のみ保険診療可

ヘリコパクター・ピロリ感染の診断・治療は上記に従った手順のみ保険診療の対象です。